

GPS/JIPS安全性要約書

物質名

無水ピロメリット酸

物質の概要

無色または淡黄色の固体(粉末または結晶)です。

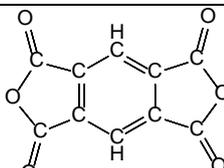
眼に入ると重篤な損傷性または眼刺激性、皮膚に接触するとアレルギー性皮膚反応を起こすおそれがあります。

一般的用途として、耐熱性樹脂・可塑剤原料、アルキド塗料原料などの用途があります。

(出典：(独)製品評価技術基盤機構 化学物質総合情報提供システム IV曝露情報-用途)

当社無水ピロメリット酸は、ポリイミド、ポリエステル等の原料、エポキシ硬化剤として使われています。

化学的特性

| | | | |
|----------|---|--------|--------|
| 一般名 | 無水ピロメリット酸 | | |
| 商品名 | PMDA | | |
| 別名 | 1, 2, 4, 5-ベンゼンテトラカルボン酸二無水物 | | |
| 化学名 | Pyromellitic 1, 2:4, 5-dianhydride | | |
| CAS 番号 | 89-32-7 | | |
| 官報公示整理番号 | 化審法 | 3-1287 | 安衛法 既存 |
| 分子式 | C ₁₀ H ₂ O ₆ | | |
| 構造式 |  | | |

用途

当社無水ピロメリット酸は、ポリイミド、ポリエステル等の原料、エポキシ硬化剤として使われています。

物理化学的特性

無色透明の液体です。

| | |
|--------|------------------|
| 物理的状態 | 固体(粉末または結晶) |
| 色 | 無色または淡黄色 |
| 臭い | 無臭 |
| pH | 信頼性のあるデータはありません。 |
| 融点/凝固点 | 287°C |
| 沸点 | 397~400°C |
| 引火点 | 信頼性のあるデータはありません。 |
| 自然発火温度 | 信頼性のあるデータはありません。 |

| | |
|----------------|------------------------|
| 燃焼または爆発範囲 | 信頼性のあるデータはありません。 |
| 蒸気圧 | 信頼性のあるデータはありません。 |
| 蒸気密度 | 信頼性のあるデータはありません。 |
| 蒸発速度 | 信頼性のあるデータはありません。 |
| 比重(密度) | 1.68 (水を1とした値) |
| 溶解性 | 水と反応する。いくつかの有機溶媒に溶解する。 |
| n-オクタノール／水分配係数 | 信頼性のあるデータはありません。 |
| 粘度 | 信頼性のあるデータはありません。 |

ヒト健康影響安全性評価

眼に対する重篤な損傷性または眼刺激性があります。
皮膚感作性があります。

| 危険有害性項目 | GHSによる分類結果(注1) および評価コメント |
|----------------------|---|
| 急性毒性(経口) | 急性毒性試験(経口)の結果から、急性毒性は極めて低いと考えられます。(区分外) |
| 急性毒性(経皮) | 信頼性のあるデータがありません。(分類できない) |
| 急性毒性(吸入:蒸気) | 信頼性のあるデータがありません。(分類できない) |
| 皮膚腐食性／刺激性 | 信頼性のあるデータがありません。(分類できない) |
| 眼に対する重篤な損傷性 ／眼刺激性 | 重篤な眼の損傷をおこします(区分1) |
| 呼吸器感作性 | 信頼性のあるデータがありません。(分類できない) |
| 皮膚感作性 | アレルギー性皮膚反応を起こすおそれがあります。(区分1) |
| 生殖細胞変異原性 | 信頼性のあるデータがありません。(分類できない) |
| 発がん性 | 信頼性のあるデータがありません。(分類できない) |
| 生殖毒性 | 信頼性のあるデータがありません。(分類できない) |
| 特定標的臓器毒性(単回曝露) | 信頼性のあるデータがありません。(分類できない) |
| 特定標的臓器毒性(反復曝露) | 信頼性のあるデータがありません。(分類できない) |
| 吸引力呼吸器有害性 | 信頼性のあるデータがありません。(分類できない) |

(注1)GHS(Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals)とは、世界的に統一されたルールに従って、化学品を危険有害性の種類と程度により分類し、その情報が一目でわかるよう、ラベルで表示したり、安全性データシートを提供したりするシステムのことです。

環境影響安全性評価

| 環境中の運命・挙動 | |
|-----------|-------------------|
| 生分解性 | 易分解性(既存化学物質安全性点検) |
| 生物蓄積性 | 信頼性のあるデータがありません。 |

| 危険有害性項目 | GHSによる分類結果および評価コメント |
|--------------|---------------------|
| 水生環境有害性(急性) | 信頼性のあるデータがありません。 |
| 水生環境有害性(長期間) | 信頼性のあるデータがありません。 |

曝露

| | |
|-------|---|
| 作業者曝露 | 当該物質は、閉鎖系プロセスで製造または使用されますので、作業者への曝露は極めて限られます。 |
|-------|---|

| | |
|-------|--|
| | ただし、サンプリング作業行う場合など、一時開放する作業は、吸入および皮膚や眼との接触の可能性があります。 |
| 消費者曝露 | 当該物質を、一般消費者が使用することはありません。 |
| 環境曝露 | 当該物質は、閉鎖系プロセスで製造または使用されますので、環境への排出は極めて限られます。 |

推奨リスク管理措置

| | |
|--------|---|
| 作業者曝露 | 技術的対策 工程の密閉化、局所排気その他の設備対策を使用する。 貯蔵ないし取扱う作業場には、洗眼器と安全シャワーを設置する。 静電気放電に対する予防措置を講ずること。 防爆仕様の電気・換気・照明機器を使用すること。 |
| | 局所排気・全体換気 高熱取扱いで、工程で蒸気、ミストが発生する作業場には、全体換気装置、局所排気装置を設置する。 |
| | 許容濃度 日本産業衛生学会およびACGIH(米国産業衛生専門家会議)により、職業的許容濃度の勧告値は設定されていません。 |
| | 保護具 |
| | 呼吸器の保護具 呼吸器保護具を着用すること。 |
| | 手の保護具 保護手袋を着用すること。 |
| | 眼の保護具 保護眼鏡(普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型)を着用すること。 |
| | 皮膚および身体の保護具 保護衣、顔面用の保護具を着用すること。 |
| | 注意事項 すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。 換気の良い場所で取扱うこと。 周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。 接触、吸入または飲み込まないこと。 適切な温度を超えない温度の冷所で使用すること。 容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、または引きずるなどの取扱いをしてはならない。 取扱い後はよく手を洗うこと。 |
| | 消費者曝露 |
| 環境曝露 | 環境への放出を避けること。 |
| 漏出時の措置 | 関係者以外は近づけない。 作業者は適切な保護具を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。 直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。 漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。 河川などに排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。 危険でなければ漏れを止める。 少量の乾燥した漏れの場合、漏洩物は清潔なシャベルを用いて、清潔な乾燥した容器に入れ、ゆるく覆いをして漏洩場所から移す。 漏洩物を掃き密閉できる空容器に回収し、集めて土、砂や不燃材料で吸収し、あるいは覆って密閉できる空容器に回収する。後で廃棄処 |

| | |
|--|---|
| | 理する。 漏出物を取扱うとき用いる全ての設備は接地する。 すべての発火源を速やかに取除く。(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止) 可燃物(木、紙、油など)は漏洩物から隔離する。 |
|--|---|

法規制情報／分類・ラベル情報

| 法規制情報 | |
|-------|-------|
| 消防法 | 非危険物 |
| 国連分類 | 該当しない |
| 国連番号 | 該当しない |

| GHS分類 | | |
|------------|--|-----|
| 物理化学的危険性 | 分類に該当するデータは得られていません | |
| 健康に対する有害性 | 急性毒性(経口) | 区分外 |
| | 眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性 | 区分1 |
| | 皮膚感作性 | 区分1 |
| 環境に対する有害性 | 分類に該当するデータは得られていません | |
| GHSラベル要素 | | |
| 絵表示またはシンボル |  | |
| 注意喚起語 | 危険 | |
| 危険有害性情報 | 重篤な眼の損傷 アレルギー性皮膚反応をおこすおそれ | |

連絡先

会社名 : 株式会社ダイセル
 住所 : 東京都港区港南2-18-1 JR品川イーストビル
 担当部門 : 有機合成カンパニー
 電話番号／FAX番号 : 03-6711-8211／03-6711-8218

発行・改定日

| 改訂情報 | | |
|------|------------|------|
| 区分 | 年／月 | 改訂箇所 |
| 制定 | 2018年3月30日 | |

その他の情報

| 国際機関、各国当局によるレビュー | |
|-----------------------|---|
| GHS関係省庁連絡会議 | GHS関係省庁による分類結果 http://www.safe.nite.go.jp/ghs/08-mhlw-0142.html |
| IPCS (国際化学物質安全性計画) | 国際化学物質安全性カード http://www.ilo.org/dyn/icsc/showcard.display?p_lang=ja&p_card_id=1375&p_version=2 |

免責条項

この安全性要約書は、化学産業界の自主的化学品管理の取組み(GPS/JIPS:Japan Initiative of Product Stewardship)の一環として作成されたものです。安全性要約書の目的は、対象物質に関する安全な取扱いに関する概要を提供することであり、リスク評価のプロセスおよびヒト健康や環境への影響などの専門的な情報を詳しく提供するものではありません。記載内容は、現時点で入手できる法令、資料、情報、データに基づいて作成しておりますが、いかなる保証をなすものではありません。